



Oasis meets Books

オアシス・ミーツ・ブックス

本のあるオアシス 本のある人生

2025年4月 vol.29

先日娘の家に遊びに行き、2人の孫(2歳・4歳の男の子)が「やぁや、本読んで」と言って絵本を持って来ました。正直な所、本人が欲しいと言って買った本は1冊もなかったの小さいながらも本に興味を持ったんや・・・と少し嬉しくなりました。抑揚をつけて読みあげていると娘のクスクスと笑っている声が聞こえます。喜んでる?と思っ二人の孫を見ると・・・見事に手には2歳児は携帯・4歳児はアイパッド。「読んで言うたんちゃうの?」と突っ込んでしまいました。いつかは携帯やアイパッドに負けない読み聞かせをしたいです。皆さん、本を読んで下さいませ。(教育委員会 副委員長・勝本 康江)

色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年 / 村上春樹

老健 オアシス 入所介護 / 介護士〈技能実習〉トー・ティ・フェン・チャン



この本との出会いは3年前。日本語を学び始めた頃、友人から紹介されました。当時、「日本語で全てを理解するのは難しい」と思っていたところ、ベトナム語に翻訳されたことを知り、すぐに購入しました。

最初のページから惹かれるものがあり、物語に引き込まれました。この本は非常に陰鬱で暗いです。しかし、村上春樹さんが描く、深い内なる世界はとても美しく、読者は常に物語の中で生きるキャラクターに夢になります。生と死、シュールなファンタジー要素、音楽とワイン・・・村上さんの作品の特徴です。そして、最も特別なものは、物語を読み終え本を閉じた時に残る余韻です。

主人公：多崎は30歳半ばになった頃、過去、自分に起こったことの実を探索し始めます。16年前の出来事にとらわれ、人生の長い時間を、その謎を解き明かすために苦悩します。密集した喪失、当惑、孤独、懐疑の世界・・・私は、この本を何回読んだか覚えていません。異郷で一人暮らしをし、日々の孤独に直面する主人公に、私は同情してしまいます。

興味のある方は、是非読んでみてほしいと思います(^^)

次回⇒老健 オアシス 入所介護 / 介護士〈技能実習〉メー・ティ・ホア

ツルネ～風舞高校弓道部～ / 綾野 ことこ

老健 オアシス リハビリ / 理学療法士 竹井 綾子



これは、弓道を通じて成長する高校生たちの物語です。

主人公は幼い頃に母親と見た弓道の試合に魅せられて、弓道をはじめます。しかし、中学時代にあることで自信を失い、弓道から離れようとしてしまいます。そんな中、新たな出会いをきっかけに再び弓道に向かい、少しずつ心の壁を乗り越えていきます。仲間達と成長する中で、弓道の技術や心構え、競技の厳しさ、そして友情やライバルとの関係が繊細に描かれています。

主人公が弓道に魅せさせたのは、弦音(矢を放った際、弦が弓を打つと鳴る音)なのですが、弦音は人によって違う音が出るようです。また、天気や心理状態の影響も受けやすく、いつも同じ音がするとは限らないのです。

この物語を読んで、弓道は老若男女問わず挑戦できる競技だと知りました。一度、弓道に触れてみたいと思う作品でした。

また、この作品は京都アニメーションによりアニメ化もされています。アニメでは一人一人の弦音が表現されており、より一層、弓道への興味が湧きました。あわせて見ていただきたいです。

次回⇒老健 オアシス リハビリ / 理学療法士 藤井 輝

死んだらどうなるの? / 桜井 識子

デイサービス オアシス長瀬 / 介護士 檜垣 昌代



生命あるものは、いずれ死を迎えます。

縁起でもないと思うかもしれませんが、身内を含め自分も、いざ亡くなると、さてどうなるのかしらと思ひ、死後の世界について諸説語られている中で興味本位で手に取ったのがこの一冊でした。

最初はドキドキしながら読み進めていくうちに、読みやすさもあり「へえ～そうなんや～」と次第にワクワク感に変わり、読み終えた後には死に対する不安や恐れが薄れ、誤解していたことも解決し、ためになる内容ばかりでした。

中でも故人に対して、49日の法要の大切さ、お盆はおもてなしをする、年忌供養は何よりも最重要らしく、死後は肉体が亡くなっても魂はそのまま続き、あちらの世界はコース別に分かれてそれぞれに忙しい等々は現世と変わらないとか・・・いずれにせよ、自分の人生に対して満足のいく結果で終えられたら、あちらの世界では笑顔で凱旋が出来るようなので、悔いのない楽しい日々を送ろうと改めて思った本でした。

次回⇒デイサービス オアシス長瀬 / 介護士 吉川 彩子

ハートレス・ケア / 小原 瑞樹

介護支援センター オアシス / ケアマネジャー 大塩 絹代



2023年に開設した「介護・医療・福祉」がテーマの小説を募集・選考する小説賞で、第一回大賞を受賞した本書。

とある営業マンからの紹介で知り、作者が当事業所管理者と同姓のため、『もしかするとペンネームで書いたのではないか』といった興味が、この本を読むきっかけとなりました。

皆さんは何故、今の仕事・職種を選択されましたか。本当になりたかった仕事についている人、そうでない人もいます。

この主人公も、友人や社会からの「介護職なんて底辺でしょ」といった反応に、悩み、退職を考えながら「心がない介護」を続けてしまいます。

それでも同僚や利用者との関わりを通して、介護の仕事は確かに3Kだけど、労働条件の悪さやイメージでは測れない感謝、幸福、心の結びつきといった魅力があり、人生の最期に彩りを添える仕事であると感じ、自分自身にも羞恥心や劣等感なく「自分は介護士だ」と言い切れるまでになる成長と肯定の物語。

介護の世界に飛び込んだ時の、初心を思い出させてくれる作品です。

次回⇒介護支援センター オアシス地下鉄平野駅前 / ケアマネジャー 岸下 昌和



おでかけのまえに / 作:筒井 頼子 絵:林 明子

老健 オアシス 衛生 / 足立 元子

この絵本との出会いは今から20数年前。
娘たちによく読み聞かせていた本で、主人公のあやこが家族とピクニックに出かけるまでの話です。



お母さんがお弁当を作っていました。お手伝いをしようと思い、あやこはお弁当箱に料理を詰めますが、ぐちゃぐちゃに詰めてしまいます。お母さんは怒ることなく、びっくりしていました。次にお父さんのところへ行きます。かばんの中に荷物が入っているのですが、チャックが開いたままなので閉めてあげようとして失敗し、かばんをひっくり返して荷物が全部出てしまいます。お父さんも怒ることなく「着替えておいで」と言います。あやこはお気に入りの服に着替えますが、出発が待ちきれず外に飛び出して転んでしまい、服が汚れてしまいます。再度、服を着替え、さあ出発です!! という話ですが、私ならこの両親みたいに大らかではいられないな... と、今は孫に読み聞かせながら思う絵本です(笑)



・次回⇒老健 オアシス 衛生 / 宇田 晴美

だいじょうぶだよーぼくのおばあちゃんー / 長谷川 和夫

デイケア オアシス 寿安 / 作業療法士 佐々木 千蔵

私が紹介したい本は『だいじょうぶだよーぼくのおばあちゃんー』という絵本です。作者は認知症診断の第一人者、長谷川和夫先生です。長谷川式認知スケールを考案し検査法を確立されました。長谷川先生が子供のころに実際に起きた出来事を、モチーフにした絵本になります。



私の子供が小学生の時に、学校で認知症の勉強をする機会がありました。その時に読んであげたことがあります。ほんの少しですが、認知症の方への接し方を理解したようです。

長谷川先生が絵本の最後に「認知症になった人の目を見て、微笑んで、寄り添って、ゆっくり話を聞いてあげてください。優しく手を握ってあげてください。きっと安心して笑顔が戻ってきます。」と書かれています。対応はケースバイケースであると思いますが、これが介護の基本だなと思いました。

今日も私は利用者様に「だいじょうぶだよ」と伝えていきたいです。

・次回⇒デイケア オアシス 寿安 / 介護士 大倉 慶子



編集後記

今号も色々なジャンルの本をご紹介ください、本当にありがとうございます。お蔭様で、OmBはこのVol.29で、通算200名を超えます。150名超えの号では、吉本理事と神田部長にご寄稿いただきました。今回、200名超えの記念として、施設入所者様の診察でお世話になっています関西医科大学名誉教授：木下利彦先生、そして財務管理面でお世話になっています木下陽介先生に、ご寄稿いただき、「OmB Plus」として発行しております。

シティーハンター / 北条 司

特養 オアシス 寿安 生活支援課 / 介護士 三好 司

舞台は東京新宿。
ボディガード、探偵、どんな依頼も最高の腕前でこなし、都会の悪を掃除する伝説のスーパー：冴羽獠は「シティーハンター」として裏社会に知られる銃の名手。しかし、獠の女好きの性格のため、請け負う事件は全て女性がらみ。



獠は幼い頃、飛行機の墜落事故にあい記憶を失ってしまい、拾われた先で少年兵として青年期を過ごしています。相棒の槇村秀幸は元警視庁特捜課に所属。このコンビは次々と事件を解決していくのですが、ある日、麻薬の密売組織によって槇村が殺されてしまいます。槇村には妹がいて、兄を殺された復習心から妹：香がパートナーの役を引き継ぐことに。

「XYZ」そこから新たなストーリーが始まる!
冴羽獠は普段はだらしないがキメル時はカッコよくキメル男! 格好いいです!! 私にとっては憧れです!!

・次回⇒営業部 人材開発 / 曾我部 泰子



左から2番目：三好さん

オアシス文庫 recommend



私は、あまり読書をする習慣はありませんが、この本は内容が興味深く、「私は、損しているな」とか思いながら読みました。

「家庭」・「恋愛」・「仕事」と、3部構成になっています。

20代の頃、以前勤めていた職場の得意先の方に、「一番緊張して、会話を気を付けるのは、家庭(妻)に対してだよ」と教えられたことがあります。

その時は、何を言ってるのだろうと思いましたが、その理由が分かるまでにそんなに時間はかからなかったと思います。(笑)

まだまだ、損をしていることが多いので、これからは気を付けて話していきたいです。

(教育委員会：井本 泰生)

老健・特養 寿安・支援長瀬の「オアシス文庫」から貸し出しできます▶



オアシスの理事として深いご縁のあるお二人を、職員の方さまにもっと身近に感じていただける機会になれば嬉しいです。利彦先生、陽介先生、ご多忙の中ご協力をありがとうございました。また、次の「Plus」までバトンを繋いでいけるよう、今後とも皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。



教育委員会

(教育委員会：中島美和子)